

タブレット端末を活用した授業事例に対する 小学校教師が持つイメージの調査

三井 一希^{*,**}, 佐藤 和紀^{***}, 水谷 年孝^{****},
戸田 真志^{*}, 松葉 龍一^{*}, 鈴木 克明^{*}

A Study on the Elementary School Teacher's Awareness of Classes with Tablet Computers Use

Kazuki MITSUI^{*,**}, Kazunori SATO^{***}, Toshitaka MIZUTANI^{****},
Masashi TODA^{*}, Ryuichi MATSUBA^{*}, Katsuaki SUZUKI^{*}

1. はじめに

教育の情報化に伴い、学校ではタブレット端末などの学習者用情報端末の整備が進められている。また、児童生徒は、ICTを道具として使いこなす情報活用能力を身につけることが求められている。

これまで、授業におけるタブレット端末の活用の実態を調査した研究としては、三井ら⁽¹⁾が挙げられる。三井らは、小学校におけるタブレット端末を活用した授業事例を分類・整理したところ、タブレット端末を効果的に使った授業が少ないことを明らかにしている。また、八木澤ら⁽²⁾は、情報端末を活用した授業における教師の発問や機器操作といった教授行動の特徴を明らかにしている。このように、既存の活用実態や教師の教授行動については研究が行われているものの、タブレット端末を活用した授業事例に対して、教師がどのようなイメージを持つのかの知見は十分ではない。

教師の行動の仕方は、教師が持つ授業イメージに関係する⁽³⁾。また、授業イメージは、教師の行動を実際に導く働きを担うもの⁽⁴⁾とされ、これまでも、初任教師の授業イメージの変容に関する研究⁽⁵⁾などが行われてきた。しかしながら、タブレット端末を活用

した授業事例に対して、教師がどのようなイメージを持つのかについての研究は管見の限り見られない。

ICTを活用した教師の指導力を向上させるためには、ICT活用の授業イメージを把握することが必要⁽⁶⁾とされている。特に、タブレット端末の導入過渡期である現在、教師は端末を活用した教授経験も被教育経験も有していない場合が多く、授業で活用するには困難が伴うと考えられる。また、教師が授業を設計する場合、事例を参照するなどして授業へのイメージを持つことが有用だとする知見⁽⁷⁾があるが、他者の授業事例が教師にとって十分な情報となっているかについては、検討の余地がある。

そこで、本研究では、タブレット端末を活用した授業事例に対する小学校教師が持つイメージの調査を行う。具体的には、教師が授業事例を見た際に、その事例に対して、実践の可否をどのように考えるのか、また、授業事例をもとに、教師はさらに発展的な活用を思いつくのかについて調査を行う。

2. 研究方法

2.1 研究デザイン

本研究では、調査1と調査2の2種類の調査を独立

* 熊本大学教授システム学研究センター (Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University)

** 常葉大学教育学部 (Faculty of Education, Tokoha University)

*** 信州大学教育学部 (Faculty of Education, Shinshu University)

**** 春日井市立高森台中学校 (Kasugai Municipal Takamori-dai Junior High School)

受付日: 2020年9月18日; 再受付日: 2020年12月19日; 採録日: 2021年2月18日